

練習問題5 5年間の計算書類を作成する！

××01年3月31日(真夜中12時と考えてください)に、
次のような状態で設立された社会福祉法人があります。

【ご注意】

この問題は、会計を学び始めてすぐの方には難しすぎる問題です。
ただ、P/L(事業活動計算書)の意義を明確に理解したいという方には、チャレンジする値打ちがあると思います。

設立時B/S

建	物	負	債
	10,000	ゼ	ロ
		基	本
			金
			10,000

【設問1】 この法人の、××02年3月期以降の計算書類を作成してください。

ただし、××01年4月1日以後の事業収益(=収入)が年間8,000、減価償却費以外の人件費・事業費・事務費等の費用(=支出)が年間7,500で固定されているものとします。

便宜上、建物の耐用年数は5年、残存価額はないものとし、5年後には建物が消滅するものとします。また、××01年4月1日から償却を開始するものとし、減価償却は定額法で行います(備忘価額1円については、考慮する必要はありません)。

【解答欄】

(1) 第1年度

資金収支計算書		P/L		B/S	
事業費等支出 ()	事業収入 ()	事業費等費用 ()	事業収益 ()	現金預金等 ()	負債 ゼロ
		減価償却費 ()		建物 ()	基本 金 ()
当期 資金収支差額 ()		当期 活動増減差額 ()		次期繰越 活動増減差額 ()	
当期末 支払資金残高 ()	前期末 支払資金残高 0	次期繰越 活動増減差額 ()	前期末繰越 活動増減差額 0	減価償却累計額 ()	

(2) 第2年度

資金収支計算書		P/L		B/S	
事業費等支出 ()	事業収入 ()	事業費等費用 ()	事業収益 ()	現金預金等 ()	負債 ゼロ
		減価償却費 ()		建物 ()	基本 金 ()
当期 資金収支差額 ()		当期 活動増減差額 ()		次期繰越 活動増減差額 ()	
当期末 支払資金残高 ()	前期末 支払資金残高 ()	次期繰越 活動増減差額 ()	前期末繰越 活動増減差額 ()	減価償却累計額 ()	

(3) 第3年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 ()	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ()	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
	活動増減差額 ()

減価償却累計額
()

(4) 第4年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 ()	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ()	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
	活動増減差額 ()

減価償却累計額
()

(5) 第5年度

資金収支計算書

事業費等支出 ()	事業収入 ()
当 期 資金収支差額 ()	
当 期 末 支払資金残高 ()	前 期 末 支払資金残高 ()

P/L

事業費等費用 ()	事業収益 ()
減価償却費 ()	
当 期 活動増減差額 ()	
次 期 繰 越 活動増減差額 ()	前 期 繰 越 活動増減差額 ()

B/S

現金預金等 ()	負 債 ゼ ロ
建 物 ゼ ロ	基 本 金 ()
	次 期 繰 越 活動増減差額 ()
	活動増減差額 ()

減価償却累計額
()

設問2

上記の社会福祉法人において、支出・費用が 設問1 のままであった場合、毎年の収入・収益がいくらであれば、5年後において、施設の再生資金10,000が確保されるでしょうか？

【解答欄】
